

## 意見の要旨とそれに対する改善の考え方について

### 通学区域の拡大

意見の要旨	改善の考え方
<p>選択肢が増えることは良いことである。現行では選択の余地が限られ、子どもが進学先を妥協することも少なくない。早く改善すべき。</p>	<p>交通網の発達など通学条件が改善し、各高校における学習活動・部活動・学校行事・地域貢献等の様々な分野での特色化が進む中、今まで以上に自らが希望する高校で、学習や部活動を通して充実した高校生活を送り、能力や個性を磨きながら成長し、将来の進路志望の実現を図っていききたいという生徒の願いが強まっています。</p> <p>通学区域を府内全域とする特色ある多様な専門学科が設置される一方、普通科においては、5校ないし7校の高校を一定の範囲内で志願できる現行の通学区域では選択幅が狭く、生徒の多様な能力・適性、興味・関心、進路希望などに十分に対応できているとは言えないため、現行の通学区域を拡大し、選択肢の幅を広げていく必要があります。</p> <p>これまで以上に高校を幅広く選択できるようにするためには、現行の4通学圏をどのように見直し、選択肢を広げれば良いのか、幅広い観点から検討を進めてきましたが、地域に根ざした教育を尊重するとともに、普通科を設ける公立高校21校に加えて、多くの私学が設置されている京都市・乙訓地域において、生徒の進路選択や中学校の進路指導が適切に行われることを考慮し、4通学圏から2通学圏への再編を基本的な方針としました。</p>
<p>通学圏内の普通科設置高校が少ない。2通学圏化は高校数を増やす観点から良い案である。10校くらいは志願できるようにしてほしい。</p>	
<p>・ 類とも1通学圏にすれば良いのではないか。2通学圏でも単独選抜で多様な選抜方法・機会を工夫すればよい。</p>	
<p>通学圏が拡大すれば学校が序列化し、地元の子供もが地元の高校へ行けなくなる。家庭・学校・地域で地元生徒を育てることが大切である。</p>	
<p>人口や面積など様々な要素があるが、1人でも多くの中学生が公立に行ける通学区域にして欲しい。</p>	<p>2通学圏への再編にあたっては、府民・市民の皆様からいただいた御意見を踏まえるとともに、地域の状況・通学の利便性等にも十分に配慮し、検討を進めます。</p>
<p>今の通学圏の矛盾の解消を考えるべきである。</p>	
<p>山科から左京の高校に通うのは大変。地下鉄でないと通えず、定期代も高い。通学圏を見直すなら、山科から左京の高校へ行くことのないよう望む。</p>	
<p>2通学圏の境界が大切。単に現通学圏を組み合わせず、通学の便や地域性を考慮すべきである。</p>	
<p>現行通学圏内にある高校には出願できるようにしてほしい。2通学圏にして現行の高校に行けなくなるなら選択肢の拡大とは言えないのではないか。</p>	

## 選抜方法の改善 選抜制度について

意見の要旨	改善の考え方
<p>単独選抜は学力の高い子の選択幅が広がり意欲も高まり、高校も他校を意識して校内改善が進む。その反面、人気・不人気校に分かれ、学力の低い子は不人気校を選ばざるを得ない。全員が一定条件で選ばれる総合選抜を維持する方が良い。</p>	<p>選抜方法の改善にあたっては、現行制度の果たしている役割を重視し、総合選抜をはじめ現行制度の良さを継続します。そのうえで、生徒がこれまで以上に自らが希望する高校で、学習や部活動を通して充実した高校生活を送り、能力や個性を磨きながら成長し、将来の進路志望の実現を図っていききたいという願いを叶える観点から、現行の希望枠の拡充を図っていくものです。</p>
<p>総合選抜の継続に賛成。総合選抜と単独選抜、双方にメリットとデメリットがあるが、一定学力があれば地元高校に進学できる制度は残すべきである。</p>	<p>また、選抜制度の改善を図る一方で、各高校の特色をより鮮明にし、生徒・保護者から見える高校づくり、魅力ある高校づくりに努め、常に質の高い教育を目指していきます。</p>
<p>経済的に進路を公立高校に限る家庭が目立つ。この状況で1通学圏単独選抜にすれば交通費等で経済的な負担増が予想される。原案通り総合選抜を残して欲しい。</p>	
<p>総合選抜はセーフティネットの意図があるかもしれないが、希望する高校を選べる方が高校も特色化が進むのではないか。</p>	
<p>進路意識や職業観を高める取組を進める中で、普通科でも選択できる機会を拡大すべき。早期に単独選抜に移行すべきではないか。専門学科は多少遠くても目的意識あれば通っている。普通科も目的意識を高めることが必要。</p>	
<p>自分で決めた希望校に向かって努力したい。もっと開かれたわかりやすい学校になって欲しい。</p>	
<p>人気校と不人気校があるが、毎年どちらになるのかわからないのは子どもがかわいそう。勉強していれば公立高校に行ける仕組みはいいが、類で大学進学に差があるのはどうかしてほしい。 類の制度を維持するのなら同じ条件・環境の高校が必要である。</p>	

## 希望枠の拡充・他圏からの入学枠について

意見の要旨	改善の考え方
<p>現状の枠のみでは運動部の高い実績が求められる。希望枠拡充には賛成である。ただし、運動部の実績のある者だけが選ばれるのではあまり意味が無い。</p>	<p>普通科第 類の希望枠制度や第 類における単独選抜は、通学圏における総合選抜を基本とする選抜制度のもとで、目的意識のより明確な生徒の進路希望に応えるものです。</p>
<p>部活動で通学圏を越えてどの学校も志望できるのは賛成だ。</p>	<p>しかし、交通網の発達など通学条件が改善し、各高校における学習活動・部活動・学校行事・地域貢献等の様々な分野での特色化と生徒の能力・適性、興味・関心に基づく進路希望の多様化が進む中、普通科においても各校の特色に応じ、第 類の希望枠</p>
<p>吹奏楽で頑張っている。先輩は皆他の通学圏にある吹奏楽の盛んな高校に行きたがっている。是非行けるようお願いしたい。</p>	

<p>希望枠拡大は総合選抜の良さを崩すものではないか。せめて通学圏内にとどめてほしい。</p>	<p>(部活動・特別活動)の志願状況が年々高まるなど、より一層、生徒が自らの生き方を考え、目的意識を持って主体的に自己の進路を選択・決定できる仕組みが求められています。</p> <p>希望枠の拡充や他圏からの入学枠は、そのようなニーズに応え、目的意識の明確な生徒に対し選択肢をより充実させるため、普通科第 類希望枠・第 類ともに通学圏を越える仕組みを設けるものです。</p>
<p>希望枠を拡充すればその分地元生徒の枠が減り希望しない学校に行かされることにならないか。</p>	

### 受験機会の複数化と多元的な評価尺度による選抜について

意見の要旨	改善の考え方
<p>前期選抜が夢のあるものになって欲しい。現行の20%の希望枠の拡大と併せて、作文・面接で意欲ある人の挑戦の場にして欲しい。</p>	<p>前期選抜の趣旨は、普通科においても、生徒の学校選択の機会を広げ、生徒が主体的に進路選択できるように「受験機会の複数化」を図ること、また、生徒の多様な能力・適性、興味・関心などを適切に評価するために「面接・作文などによる多元的な評価尺度による選抜」を導入しようというものです。制度の具体的な内容については、今後、府市教育委員会で検討していきます。</p>
<p>面接や作文による選抜は、生徒の様々な能力を見てもらえるので歓迎。学力だけでなく様々な個性ある子が公立高校に入学できるようにして欲しい。</p>	
<p>良い案だと思う。前期不合格でも中期で挑戦できる。最後の挑戦の場として後期も検討してほしい。</p>	
<p>勉強が苦手だが学級活動に一生懸命な子、クラブで行きたい学校がある生徒にとって、可能性が広がる。学力検査中心では多様な個性を生かしきれない。普通科にも学力によらない独自の選抜を導入すべき。</p>	
<p>生徒の挑戦機会を増やし、挑戦に失敗した子を保障するシステムをしっかりとアピールして欲しい。</p>	
<p>基礎学力が疎かにならないか懸念する。</p>	
<p>受験生の負担増大、受験早期化を招く。受験の長期化だけでメリットは少ない。</p>	

### 改善全般

意見の要旨	改善の考え方
<p>全ての子が必要な学力を身につけ、学校生活で様々な行事に取り組み、豊かな人間関係を築ける公立高校を願っている。目的意識が明確な子も、未だ定かでない子も、ともに通うことのできる地域の高校を望む。学びたい意志を持つ全ての子がじっくり学べる制度の充実をして欲しい。</p>	<p>現行制度導入から20年以上が経過し、各高校における学習活動・部活動・学校行事・地域貢献等の様々な分野での特色化と生徒の能力・適性、興味・関心に基づく進路希望の多様化が進む中、生徒一人一人が自ら希望する高校で、学習や部活動を通して充実した高校生活を送り、能力や個性を磨きながら成長し、将来の進路希望の実現を図っていききたいという願いが強まっています。</p>
<p>より広くより多くの学校に行けるようにしてほしい。高校も特色化に力を入れ活性化するのは。</p>	

<p>目標のある子どもの希望が叶うように配慮願う。最終決定には慎重な討論を経て欲しい。</p>	<p>そのようなニーズに応え、希望する高校をより多く選択できるための通学区域・選抜方法の在り方、その改善方策について検討するため、保護者の皆様及び学校関係者の方々からなる「京都市・乙訓地域公立高等学校入学者選抜に係る懇談会」を本年4月に設置しました。</p>
<p>15歳では自分の能力・適性を見極めて進路を選択できない。必要なのは能力・適性を伸ばし、興味・関心を広げる学びを保障すること。早期から能力別に振り分け、遠距離通学を強いる改善には納得いかない。高校生は心身ともに育ち盛りであり、同じ学ぶ機会を保障し、地域で育てる近くの学校が必要。どの高校でも確かな学力・発達を保障し、地域の高校としての教育条件整備を望む。</p>	<p>懇談会から提出された「まとめ」の内容を尊重し、現行制度の良さを生かしつつ、これまで以上に生徒一人一人が幅広い多様な進路実現が図れる選抜制度を目指した「京都市・乙訓地域の通学区域・選抜方法の改善に向けて(案)」を策定し、そこに示した通学区域の拡大、希望枠の拡充、他圏枠の設定、受験機会の複数化などを改善の基本的な方向性として、通学圏の設定にあたっては、通学の利便性にも配慮したうえで、改善の具体化を進めていきます。</p>
<p>是非学校選択の枠を広げて欲しい。選択肢拡大は生徒のためになる。出来るだけ早い実施を望む。</p>	<p>公立高校が今日の生徒・保護者の求めるニーズに応えるためには、新しい制度はできるだけ早期に具体化する必要があると考えています。</p>
<p>学校関係者・生徒・保護者の意見をしっかり時間をかけて聞くべきである。未だ具体的な内容が定まっていないのに、21年度から適用するのは早過ぎる。</p>	<p>その一方、広く府民・市民の方から多数の御意見をお聞きするため策定した「京都市・乙訓地域の通学区域・選抜方法の改善に向けて(案)」について説明会や意見募集を実施しました。それらの御意見を踏まえて詳細な制度内容を検討する期間、制度改善の十分な周知期間等が必要になってくることから、実施時期については早くても21年度選抜と考えています。</p>
<p>現行でも進路情報の多様さ・変化の大きさで進路指導が困難である。生徒・保護者の理解を深めるため十分な余裕が必要である。</p>	<p>改善の実施にあたっては、詳細な説明を記した印刷物の配布や、中学校等への説明会の実施など、生徒の進路選択や中学校における進路指導が適切に行われるよう、十分な周知に努めていきたいと考えています。</p>
<p>進路を決めるのは子どもである。子どもにわかるように制度変更の説明を望む。</p>	<p></p>

上記の他、多数の御意見をいただきました。

今後、皆さんからいただいた御意見を参考に関係機関とも十分に連携し、改善の具体案策定に向けて検討を進めていきたいと考えています。